

関電、頼みの綱は火力

焦点 原発ゼロ

—節電の夏—

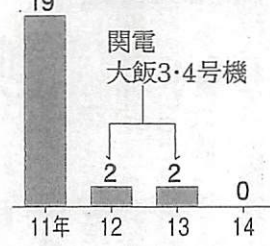
きょうから節電要請期間

24時間作業 点検短縮 舞鶴1号機

今年も「節電の夏」がやって来る。政府は1日から9月末までの3カ月間、沖縄県を除く全国で節電を呼びかける。原発の運転を見込まず、特に関西は原発事故以来初めて「原発ゼロ」で迎える夏。電力会社、企業、家庭……これまでの延長線ではない取り組みが、それぞれに求められる。

原発事故前、発電に占める原発の比率が5割近くと全国最多だった関西電力。再稼働できない原発の代わりに、火力発電所を

夏の原発の最大稼働数
調整運転中も含む



フル稼働させる。7月3日から営業運転に入る舞鶴発電所(京都府舞鶴市)の1号機では30日、定期検査の作業が大詰めを迎えていた。

当初計画では、検査は8月半ばまで5カ月間の予定だった。溶接など作業員の足りない工程は関係会社のベテラン作業員の配置を見直すなど工夫をこらし、補修作業などは24時間態勢で

続けて1カ月縮め、夏前の運転にこぎ着けた。

1、2号機合わせた発電能力は原発約2基分の180万キロワット。石油や天然ガスより安い石炭を燃料に使うため、経営面でも発電費用を抑える頼みの綱

「なにある」と話す。

節電意識定着 数値目標なし

老朽化した火力発電に頼らざるを得ない関西電力などの

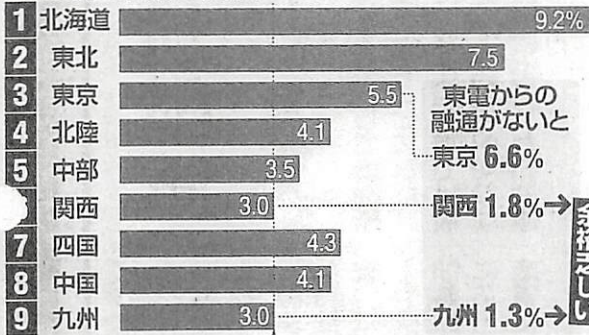
大手電力会社。福島第一原発の事故後も、原発依存から本気で脱しようとしなかった姿勢の結果でもある。

「原発が動かないと電力が足りない」。事故直後にこう説明した政府に歩調を合わせ、関電は12年7月、大飯3、4号機の再稼働を実現させた。しかし、昨年9月に2基とも再び運転が止まり、全国で「原発ゼロ」が現実になった。

一方で、事故から4度目の夏を迎え、電気を使う側の意識が大きく変わった。原発依存以外の選択肢を示さない電力会社の姿勢を補

この夏、電力供給の余裕は?

電力各社の供給の予備率



最低限必要とされる予備率3%



■関西電力管内の電力の見通しと節電目標

	節電目標 (2010年比)	電力の余力 (予備率)の 予測	節電量の推計値 (万キロワット)
2011年夏	▼15%程度	▼6.4%	なし
2012年夏	▼10~15%以上	▼14.9%	なし
13年夏	数値目標なし	3.0%	268
2014年夏	数値目標なし	3.0%	263

2004年に1号機、10年に2号機が稼働した舞鶴は、新鋭の石炭火力だ。しかし、昨夏には、配管の水漏れや台風のゴミによる海水の吸入口の目詰まりで緊急停止。安定供給に懸念の関電をヒヤリとさせた。このため、今夏は運転期間中の点検も強化。運転担当者が約300の点検項目を常にチェックし、補修担当者らも点検に当たる。

寺田則仁所長は「電力需給が厳しい緊張感が、みんなにある」と話す。

エアコンの温度設定の見直しやLED照明の普及など、関西管内では原発2基分の発電能力にあたる263万キロワットの節電が見込まれる。全国で最も電力需給が厳しいとされる関西で、数値目標なしの節電で済みそうなのはこの効果が大きい。原発ゼロの夏を、エネルギー問題を政府と電力会社任せにしてきたのを見直す転機にしたい。

(西村宏治、中川透)